

子宮頸がん定期検診を受けていない20歳以上の女性へ

子宮頸がんは 検診で防げるがんです

自宅で、ひとりで、簡単にできる
子宮頸がん検査キットのご案内

病院に行くのが煩わしい方



産婦人科が遠くて不便な方



仕事が忙しく病院が開いている
時間に行けない方



育児や家事に追われて
時間がない方



安心検査キットで子宮頸がん予防

Ladymama

子宮頸がん定期検診を受けていない20歳以上の女性へ
子宮頸がんは検診で防げるがんです。

20歳になったら検診を受けましょう。

子宮頸がんと聞いて、「自分には関係ない」「まだ大丈夫」そう思っている人はいませんか？子宮頸がんは性病とは違います。女性なら誰もが発症する可能性のあるがん。ですが、がんになる前の状態を早期発見できる定期検診をきちんと受けていれば、子宮も失わず、命に関わることもないのです。

20代～30代で子宮頸がんが増加しています。

子宮がんには、子宮頸がんと子宮体がんの2種類があります。子宮頸がんは子宮頸部にできるがんで、さらに子宮頸部扁平上皮がんと頸部腺がんに分かれます。

子宮頸がんは近年、発症が40代以降では減少傾向にありますが、20～30代の発症率は増加しています。子宮頸がんは、がんによる死亡原因の第三位、婦人科系がんの中では乳がんに次いで第二位を占めており、特に20～30代の女性においては、発症するすべてのがんの中で第一位となっています。子宮頸がんが厄介なのは、進行しない限り自覚症状がないところです。不正出血や下腹部痛が起きて気付いた時にはかなりがんが進行していた、ということも少なくありません。子宮温存の手術ができるのは初期の頃ですので、がんが発見された時には手遅れということもあるのです。

子宮頸がんは遺伝性ではありません、HPV感染が原因です。

子宮頸がんの原因はほぼ100%がヒトパピローマウイルス（HPV）感染です。HPVは100種類以上あり、感染自体は多くの女性が一生に一度は感染する、といわれるほどありふれたことなのですが、たいていは免疫によって自然排除されます。

しかしごく一部、しかもリスクの高いHPV（ハイリスク型HPV）が持続的に感染し続けると5～10年ほどかけてがん化します。

HPVは性行為によって感染するのですが、コンドームを使っていたからといって100%防ぐことはできません。すなわち性交経験のあるすべての女性が子宮頸がんになる可能性があるといえます。



↑ハイリスク型HPV13種類 ハイリスク型HPVのなかでも特に危険とされるのが、16型、18型でがん
に発展するリスクが高く、進行スピードが速いといわれています。

子宮頸がん検査キットなら自宅で、一人で、簡単にできます

子宮頸がん検診の受診率は、ほかの国に比べると日本が際立って低いといわれています。日本人の感覚でいえば医者にかかるのは、体調が悪い時やけがをしたときといった、「何かあったとき」。予防医療という意識があまりないことは原因かもしれませんが、それだけではありません。

仕事で病院が開いている時間に行くことができない、育児に追われていて時間がつくれない、近くに産婦人科がない、産婦人科に行ったことがなく、恥ずかしい・怖い…など、理由はさまざまでしょう。そういったなかで検査キットはいつでもすきな時に誰にも知られずできますので、検査の精度さえよければ大変都合のよい方法です。

子宮頸がん検査で前がん状態を発見する

子宮頸がん検査キットで3種類の検査ができます。

細胞診	細胞診は、HPVに感染してがんになる前の異常な細胞を見つけ出すことができます。子宮頸がんはHPVに感染してから、がん化するまで数年かかるといわれており、がん化する前には「前がん」という段階を踏みます。この前がん細胞（異形成細胞）を発見できれば、経過を見ながら早期治療も可能です。
HPV検査	HPV検査は、危険なウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。この検査でウイルスが存在すると分かった場合に、子宮頸がんを発症するリスクの予測に役立ちます。すなわち、細胞診だけでは見逃がしていたかもしれない前がん細胞を見つける確率が高まります。
HPV タイプング 検査	HPVタイプング検査は、ハイリスク型HPVの感染があった際、それがどの型なのか？まで調べます。ハイリスク型HPVは13種類あり、危険度が違うので型も調べることでリスクを測れます。

子宮頸がん検査キットは信用できるのか？

検査キットを使ったことがない人にとって心配なのが、病院で検査するのと同じ精度なのか？ということですね。

Ladymamaで採用している加藤式自己採取器具は子宮頸がん検査用に太さ、素材を考えて開発されたものですから、膈内や子宮頸部から大量に細胞を採取できる構造になっています。医師が採取する場合は、目的とする場所から目で確認して直接採取することができますが、自己採取ではそうはいきません。そのハンディキャップを補うためにはたくさんの細胞を採取することが重要なのです。検査において最も重要な細胞を採取するという作業が素人である本人に任されているので、器具の選定が重要なポイントになることは言うまでもありません。加藤式自己採取器具は国内はもとより国外でも使われており、信頼されているもので、安心して使用していただけます。

子宮頸がんワクチンは100%ではない

子宮頸がんワクチンは、ハイリスク型HPVの中でも特に原因として最も多く報告されている16型と18型の感染を防ぐワクチンです。このワクチンは、すでに感染しているHPVを排除したり、子宮頸がんの前がん状態や細胞を治す効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものですから性交経験のない小学校6年生から高校1年生までが接種の対象になっています。3回にわたり接種することで体に抗体を作らせて長期的に体を守ることが期待できます。しかし子宮頸がんの原因がこの16型、18型である確率は全体の50%ほどといわれていますので、残り50%の他のHPVの型には感染してしまいます。また予防効果の持続時間についてはまだ確立しておらず（研究上9.4年までは確認できている）、副反応も一部で認められていることから疑問視されているのが事実です。

なにより効果が16型、18型に限定されている時点で、子宮頸がんを完全に防げるわけではないので、対象年齢になれば検診を受けなければいけないことに変わりありません。

子宮頸がんにつわる悲しい誤解

子宮頸がんは性に関する病気だということで、世間では様々な俗説や偏見が語られていることもあります。間違ったうわさに流されず自分のために正しい知識を持つことが大切です。

Q.子宮頸がんは性病とは違うの？

「性病」ではありません。ですが主な原因のHPVは性行為によって感染するものなので、「性感染症」の一つといえるかもしれません。しかしなかには性交経験がなくても子宮頸がんになる人はいます。

Q.性交経験が多い人がなる病気なの？

性交経験が0と1では圧倒的に1のほうが罹患率が高いです。なぜなら、原因のHPVは性行為によって感染するからです。ですが、それ以降は回数が多いからと言ってがんになりやすいとは一概には言えません。コンドームを使用していればHPVの感染は有効に防げますし、HPVに感染してもがん化するかは生活習慣（喫煙歴など）が少なからず関係してくるからです。一般的に性に積極的な人は危険な行為をしやすいと思われがちです。そのことから性交経験が多い人がなりやすいといわれるのでしょう。

Q.HPVは男性に関係ないウイルスなの？

男性も性行為によってHPVに感染しています。女性と同じく自分の免疫で排除されなければ、肛門がん、陰茎がんを引き起こす原因になります。しかしその確率は子宮頸がんの10%ほどともいわれています。

なのでHPVはほぼ女性にしか悪影響を及ぼさないウイルスといえるでしょう。結婚している夫婦間で、子宮頸がんの発症ルートをめぐって論争が起こることがあるようなのですが、(夫側は何ともないのに、妻が子宮頸がんになったのは浮気の証拠ではないのかなどというトラブル)HPVの性質を知っていれば意味のないことです。